2016（平成28）年３月８日発行

No. 75

鹿私幼だより

会　報

（一社）鹿児島県私立幼稚園協会
発行人／園尾　憲一　編集／調査広報委員会
〒890-0064 鹿児島市鴨時化新町5番6号
（プロパンガス会館５階 502 号室）
TEL099-285-6688 FAX099-285-6689
ホーム･ページ　http : //muzoca.net
E-Mail　jimukyoku@muzoca.net

見えるもの見えぬもの

鹿児島県私立幼稚園協会
会長　園　尾　憲　一

古来、わが国の文化は「見えないもの」を大切にしてきた。その最たるものは「ココロ」で、あの東日本大震災の最中でも、整然と行動する人々の心優しさが、世界中を驚かせた。それは、わが国の春夏秋冬をもつ豊かな自然との一体感から培われてきたものだろう。風鈴の音や打ち水に涼しさを感じるのも、日本人の伝統的な見えない心の豊かさゆえに違いない。

だが「モノ」で溢れる現代社会は、「見えるもの」の方を重んずる傾向が垣間見える。アメリカの先住民に「買い求めることができるものなど本当に必要なものではない」との格言があるが、拝金主義とは言わないまでも、現代人の物欲には目を背けたくなることもある。

昔、鹿児島での研修大会にお招きした桂小金治さんは、親にハーモニカをねだったら、欲しいなら自分で作れと言われ、草笛の名人になったとかで、素晴らしい音色を会場一杯に響かせてくださったことを思い出す。

ところで、金子みすゞさんの詩「星とたんぽぽ」に「昼のお星は目に見えぬ。見えぬけれどもあるんだよ。見えぬものでもあるんだよ」という、公共広告機構のＣＭでおなじみの一節があるが、幼児教育に携わる者としては、この「見えないもの」を大切にしていきたいものだ。

わが園でのこと。テレビで林檎殺人事件が放映されたころ、チューリップ殺人事件が勃発。ある新入園児が咲き誇るチューリップを次々に引きちぎってしまうというもの。怒りを抑え理由を尋ねると「いつも草ばかりで可哀想なウサギにご馳走したい」のだと。子どもの見えない心が見えねば、大変なことになっていた。

また、金子みすゞさんの詩「見えないもの」の一節に「ねんねした間に何がある。薄桃色の花びらが、お床の上に降りつもり、お目々さませば、ふと消える。誰も見たものないけれど、誰がうそだと言いましょう」とあるが、「見えないもの」を見ている子どもたちの心を大切にしてあげたいものだ。

空海も『般若心経秘鍵』に同じようなことを書いている。「医王の眼には途に触れてみな薬なり、解宝の人は砿石を宝と見る。知ると知らざると、誰が罪過ぞ」。表面の見えるものだけでなく、その裏にある見えぬものも見る目が求められるということだろう。

こうした見えないものまで見通す目の確かさは「学校評価」にも求められ、公開保育コーディネータによる一時的な公開保育を通した評価だけに止まらず、外部から見えにくい部分まで自らで評価することも大切であろう。

さてさて、見えない星が見えそうだ。まだ確認されてはいないが、太陽系に第九惑星が存在するらしい。太陽を一万年で一周するとのこと。ロマンがありますね。われわれも幼児教育にロマンを求め、新制度二年目を迎えましょう。

教育研究委員会

教職員の資質向上と教育活動の充実に向けて

教育研究委員長　内薗　良喜

Ⅰ　平成27年度の活動を振り返って

本年度４月から「子ども・子育て支援新制度」が施行された。幼稚園、認定こども園等に対する保護者の関心も高くなり、改めて保育の質の向上が問われている。保育の質を充実させるとともに、0・1・２歳児の教育・保育の充実にも視点をあてて研修内容の工夫・改善を図り、魅力ある充実した研修会が展開できるように努めた。いずれの研修会も所期の目的は達成できたと考えるが、研修会によっては出席率の向上や研修成果の波及などの面でまだ課題が残されている。また、学校評価についても、一層の研究・実践が必要であると考える。

１　新規採用教員研修会

第１回目を４月２日（木）に、第２回目を12月25日（金）に実施した。１回目は134名（約72％）の参加で、研修態度も熱心で緊張の中にも意欲が感じられた。２回目は118人（約64％）でややや参加者が少なかった。しかし、経験したからこその感想や意見、悩みなどが出され、充実した研修ができたと考える。「参加していろいろ学ぶことができた」、「みんな同じような悩みを持っていることが分かった」「改めてやる気が出てきた」などの感想が多く寄せられた。来年度も更に参加者が増えるよう設置者・園長のご理解とご協力を賜りたい。

２　主任研修会

６月４日（木)、「マリンパレスかごしま」で実施した。主任の役割、理想の主任像、職員への指導や職場での人間関係、学校評価等について、講話や体験発表、グループ協議を通して熱心に研修した。本年度は、約65％の参加があり、例年より参加率が高かった。年１回の会であり、もっと参加してもらえるよう更に働きかけるとともに、内容を工夫し、一層充実した研修会になるよう努めていきたい。

３　第54回鹿児島県教職員研修大会鹿児島大会

７月21日～22日、鹿児島サンロイヤルホテルを中心にして、全体会と12分科会を実施した。1124名の教職員が参加し、盛大且つ充実した大会となった。本年度から新たな認定こども園がスタートし、勤務シフトの関係で出席率が懸念されたが、各園が工夫してくださり前年以上に参加者が多かった。また、本年度も、県の「最新の幼児教育に対応する人材育成事業」に係る教職員を参加させることができた。このことは、県全体の幼児教育の質を底上げするという意味でもよかった。

４　第16回幼児教育実践講座

本年度から講座名を標記のとおりに変更し、８月５日～６日に、「マリンパレスかごしま」で開催した。教育相談関係だけでない幅広い分野や幼保連携型認定こども園にも視点を当てるようにし、「遊びを通した豊かな育ち」「粘土による造形活動」「幼児期の食育」「乳幼児の育ち」「特別支援教育」など５つの講座を設定した。本年度の参加者は138名で保育者としての資質向上や技能習得に大いに役立ったという感想が多かった。

５　免許状更新講習（選択６時間）

本年度も、幼児教育実践講座と抱き合わせて、１日目の２講座をそれに当てて実施した。35名の受講者があり、講師の適切な指導もあり全員合格した。

６　第20回幼稚園教育改善研究会

１月29日（金）～30日（土）に鹿児島市で開催する予定であったが、本年度は県男女共同参画課からの委託研修と時期が重なったためにやむなく中止した。本年度の担当等は来年度にそのまま引き継ぐこととした。

７　各支部・ブロックごとの研修

各支部・ブロックにおいて、教育研究部員を中心に年間研修計画を立て、経営、教職員の資質向上、県大会のテーマ研究、当面する課題等について研究・実践を推進し、大きな成果を上げていた。それぞれすばらしい講師を依頼しており、その情報交換も行われた。ただ、学校評価については、支部やブロックにおける研究・実践が十分に行われているとは言い難いので、更に取り組んでいく必要がある。

８　保育教諭等研修会

県男女共同参画課からの委託を受けて、２月９日～10日に「マリンパレスかごしま」で開催した。

研修内容として、子ども・子育て支援新制度や幼保連携型認定こども園教育・保育要領、０・１・２歳児や３・４・５歳児の教育・保育、子育て支援、特別支援教育、感染症・食物アレルギー対応等を設定した。対象者は、県内の公･私立の幼稚園、保育所、認定こども園の保育従事者で、三者合同での研修会は初めてであったが、予定外の研修にもかかわらず204人が参加した。関係者の研修意欲に驚かされた。

Ⅱ　平成28年度に向けての計画

平成27年４月から「子ども・子育て支援新制度」に基づく諸施策が実施され、幼稚園にとっては大きな変革の年になった。社会の変革に柔軟に、且つ適切に対応するとともに、これまで幼児期の教育を担ってきた教育機関としての誇りを持ち、子どもの目線に立ち、また、子どもの発育・発達を踏まえて、今後も適切な乳幼児教育・保育を進めていかなければならない。そのためには、常に時宜を得た研修態様や研修内容、研修方法となるよう一層の工夫・改善を図っていく必要がある。また、教職員の資質を高め質の高い保育を実践するための、各園における系統的・効果的な園内研修や学校評価等も促進していく必要がある。

平成28年度は、第55回県教職員研修大会が大隅地区で開催されることになっており、意義ある大会となるよう、大隅支部と緊密に連携をとり、その円滑な推進・運営に努めていきたい。

政策振興委員会

平成２８年度に向けて

政策振興委員長　島谷　精利

すべての子どもに質の高い幼児教育を保証することや子どもたちの最善の利益の実現のため日々設置者・園長先生方は努力されていることと思います。

さて、平成27年度から子ども・子育て新制度が、スタートしましたが、施設型給付に移られた園では、事務量の増加やなれない市町との対応に苦慮されているとお聞きしています。また、施設型給付の中の加算部分が未だに実施されていないところもあります。

平成27年度は、私学助成と施設型給付と言う二つの立場で予算の要望や陳情を行ないました。平成28年度も様々な形態の施設が混在する中での活動となります。要望先が県だけでなく市町にもすることになり

ます。市町との要望は各地域の園での交渉となることも多くなると考えられますので、各地域の行政機関との繋がりを深めていただきたいと思います。

皆様のご意見を元に実情に即した活動と前年度同様以上の予算獲得に努力していきたいと思います。

1　これまでの政策委員会の経緯

⑴　九州地区幼児教育合同会議

九州各県の団体長、行政の担当者、政策委員長の談話で今後の課題について意見交換を行った。

⑵　公明党（国会議員、県議、市議、）

昨年に引き続き公明党との意見交換会が開かれ子ども・子育て新制度についての意見交換を行った。

⑶　自民党友好団体意見交換会（国会議員、県議、鹿児島市議）

子ども・子育て新制度について、私学助成と施設型給付について等の意見交換を行った。

⑷　自民党県議団私学振興調査会幼稚園協会意見交換会

調査会に説明を行い新制度について理解を深めていただいた。

⑸　県知事への予算要望書提出

例年私立幼稚園の「経常費補助金」への財源措置並びに現在予算化されている項目の補助金について、可能な限りの引き上げと新制度下での変化に対応する予算措置（私学共済に入る認定子ども園の保育所部分の保険料の補助等）及び多子世帯への保育料軽減措置をお願いした。

2　今後の課題

平成27年度からの子ども・子育て新制度が始まりましたが、このことにより今までの公私幼保間格差が若干緩和されたように思えますが、その代わりに地域間格差が大きくなったように感じられる様になりました。

平成28年度も引き続き、県を通じて、ばらつきが起こらないように指導していただくよう要望をするとともに、各市町村の担当者に、新制度に公私幼保並びに地域間の格差がないように「負担の平準化」もうたわれている事なども理解して頂けるように努めたいと思います。

また、ばらつきが無くなる様に各支部ブロックにおいて近隣の幼稚園や認定子ども園・保育所などと連携し情報を共有して、各担当市町村に対し要望して行かなければならないと考えられます。

したがって今後は、支部・ブロック・各園が市町村の担当課との良好な関係を築くことが重要となりますので、そのような関係を結べるよう努力しなければならない。

経営研究委員会

活　動　報　告

経営研究委員長　**圖師　和俊**

４月からスタートした子ども・子育て支援新制度。私立幼稚園協会内では、施設型給付の幼稚園や認定こども園として新制度へ移行された園は約半数でした。実際に移行してみて、施設型給付における各種加算や職員の配置基準のあり方等、複雑な仕組みに困惑された方も多かったのではと思います。個人的には、様々な事業に必要な人材を確保することに悩まされた一年でありました。

さて、本年度の経営研究委員会は、経営研究部会との合同会議を計５回開催しました。委員・部員の皆さんには、設置者・園長研究協議会及び県教師研修会第12分科会における研修テーマ・研究内容について企画し、役割分担をしていただきました。また、財務分析のデータ入力と分析研究・発表、教員採用候補者試験の監督と試験データの入力など多くの作業にも汗をかいていただきました。すべての活動に於いて、無くてはならない献身的なお働きに心から感謝を申し上げます。

平成26年度の財務状況調査・分析

本年度のデータ提出率は81％（115園／142園）と前年度と比べ１ポイントですが改善されました。次年度からの財務分析は、補助制度の違いもあることから、表記形式や分析内容について十分な議論の上、経営安定に貢献できるものへの変更が必要かと思います。

本年度は、つばき幼稚園の大保辰美先生による興味深い考察と解説が好評でした。

私立幼稚園教員採用候補者登録試験

昨年に引き続き、鹿児島女子短期大学（高麗町）において、８月12日（水）に実施しました。最終受験者数は486名で前年度より59名の減でした。

本年度は昨年度の反省から、各教室での受け付けに変更したところ、入室までスムーズに進めることができました。当日の途中退席は無く全員終了することができました。

県設置者・園長研究協議会（鹿児島）の開催

９月28日（月）・29日（火）の二日間、種子島西之表市のホテルニュー種子島に於いて65名の参加をいただいて開催されました。

・大会テーマ『新制度元年。自演の価値を高める時。』
～今こそさらなる質の向上を目指して～

・講　　演「学校法人会計基準の改正について」
全日本私立幼稚園連合会顧問公認会計士
山口　善久　氏

・記念講演　『種子島の魅力を探る』
ひとつ葉の会会長　鮫嶋　安豊　氏

４団体教育交流会

11月20日（金）には埼玉県浦和市で開催され、本県からは５名が参加しました。

交流会に先立って、全埼玉私立幼稚園連合会主催の講演で「生体リズムと子どもの生活習慣」を学び、４県の団体長の先生方によるシンポジウムでは、各県における新制度移行状況や課題について報告や提言をいただきました。

九州地区設置者・園長研修大会（福岡大会）参加

７月２日（木）・３日（金）の２日間、福岡市「ホテル日航福岡」で開催されました。

「新制度元年。いまこそ自園の価値を高めよう」のテーマで、本県は33名の参加でした。

前日開催された恒例の次世代交流会へは４名参加し、九州地区の先生方との情報・意見交換が活発に成されました。

教員養成校との連絡会

２月17日（水）に、県内にある養成校６校との連絡会が開催されました。本年度は前項からの参加を得られ、採用候補者登録試験の実施時期や教育実習や募集時期等について活発に意見交換がなされました。求人内容と就業実態との乖離が見られるなど、いくつか要望も出され、協会としても改善すべき課題も与えられました。

九州人材発掘隊への参加

本年度も７月31日（金）に、福岡市ホテル日航福岡において九州合同就職説明会が開催されました。福岡県私立幼稚園振興協会の主催で行われるものに、鹿児島県のブースを設置させていただいて面談をしました。18名の学生が来訪し、鹿児島県の幼稚園のアピールと採用試験や訪問・自主実習等についての質問に対応しました。

認定こども園委員会

活　動　報　告

認定こども園委員長　輿水　　基

「手探りの中で見えてきた!?」

平成27年４月より子ども子育て支援新制度が始まりました。国の子ども子育て会議を受けて各市町村ごとに、そして県ごとに子ども子育て会議を開催し、子ども子育て支援計画を立てて準備万端でスタートを！とは残念ながらなりませんでした。最後の最後まで二転三転として、県も市町村も各関係団体も各施設の理事長園長も不安だらけの手探りでのスタートとなりました。鹿児島県私立幼稚園協会の加盟園でも認定こども園が半数となり、協会内でも様々な思いや不安があるだろうことに少しでも対応するべく、認定こども園委員会は特別委員会として発足しました。そこで「みんなの聞きたいこと」「みんなの知りたいこと」を改めて知ることから始めようとアンケートをとり、いろいろと見えてきたことがあります。平成27年度は見なし確認で認定こども園になった園も多く、その大半は幼稚園由来の認定こども園でした。平成28年度に向けて、保育園由来の認定こども園も増えてきています。幼稚園として培ってきたことに磨きをかけ、足らない部分を知り補いさらに高めていく循環を作る必要性がありそうなことがアンケートからも見えてきました。さらに幼児教育とは？学校教育としての教育・保育とは？ということを改めて考えることを各園が迫られていると感じています。

7/8　第１回認定こども園委員会

アンケートから見えてきたことを各委員会に答申のような形でお伝えして、平成28年度以降の委員会の活動計画に位置づけていただけるようにすることを確認して委員会を始めました。

アンケートの構成と質問事項の作成

→施設の類型を問わず答えられるものになるように、回収後の分析で類型ごとに特徴が見られるように、みんなの知りたいこと不安なことは何なのか、というポイントに配慮して作成しました。

7/17 アンケート配布　7/31 アンケート回収締め切り

8/10　第２回認定こども園委員会

アンケートの集計と大まかな検討

９月の設置者園長研究協議会＠種子島においてアンケート結果の発表するための段取り

9/8　第３回認定こども園委員会

集計結果を細かく検討、類型による課題の抽出

9/29　設置者園長研究協議会においてアンケートの分析結果を報告

アンケートから見えてきたこと（*斜体*は回答の結果や傾向、太字は委員会の考え）

他の項目より経営・経理に関しての項目への回答が多かった　→　**設置者園長としては当然のことで、保育の質の向上についてもより意識を高くしていく必要がある。**

私学助成の幼稚園の回答率が高かった　→　**不安や懸念が回答として表れているようだ。新制度へ移行した園は不安ではなくやらねばならないことへとになったと考えられる。移行していない園としては不安や懸念の表れとして、移行した園は不安解消への関心の高さとして回答したのではないか。**

私学助成幼稚園と幼稚園型・幼保連携型との比較において園内研修、会議などに関しての回答に差がみられた　→　**現状でやれている園と、教職員増やローテーション勤務などで課題が出てきている園との違いではないか**

以上のようなアンケート結果の分析報告をしました。

11/16　第４回認定こども園委員会

各委員会へアンケートから抽出された課題をまとめることで、各園の関心の高さや必要度の高さを代表しているものとして答申とする

教育研究委員会

・会議、研修の時間の確保と内容
・０～２歳の育ち（発達）とふさわしい生活のあり方、低年齢児の目的とねらいも含めた行事のあり方、乳児保育（０~２歳児）についての研修
・人材育成や園内研修のあり方
・教育保育課程
・一時預かりの保育のあり方
・食育や食物アレルギーに関しての研修
・幼稚園教育要領の改訂に向けての研修
・一日の保育時間の長短、長期休業のあるなしによる、育ちの違いについて

経営研究委員会

・労務管理（給与、残業等、福利厚生、職場環境の改善）
・就業規則、キャリアパスの作成について
・第三者評価のできる組織作り
・加算について（処遇改善、基準配置の必要人数など）
・人材確保について
・財務分析のあり方、分析の仕方

政策振興委員会

・処遇改善等各種加算の県、市町村の独自上乗せ
・今後の予算要望のあり方
・幼稚園教諭・保育教諭の社会的な地位向上
・事務の繁雑さの緩和→統一的な様式や記入の仕方の説明などをしてもらえないか要請
・市町村格差の是正の枠組み、モデルの提案、子ども子育て会議に向けた共通の資料作り

調査広報委員会

・各種加算の実施状況と調査
・（保護者目線で）認定や類型の違いをわかりやすく伝える
・幼稚園教諭（保育教諭）の魅力を伝える
・認定こども園や施設型給付幼稚園への入園の手続き

私学助成であっても施設型給付の園であっても、新制度の影響を大きく受けることになります。新制度は見直しを前提としている部分もありますし、市町村によって制度の解釈や子ども子育て会議の位置づけなどが違っているようです。市町村が窓口になった認定こども園にあっては県との交渉は不要であるとか協会の組織自体も必要なのかという思いもあるかもしれませんが、市町村格差の是正であるとか、県下で見通さなければ見えてこないこともありますし、なにより、加盟園が多いことでできること聞いてもらえることもあるわけです。今後の認定こども園委員会の活動ははっきりと決まったものはないですが、戦後70年で迎えた幼稚園業界激動の時代を一緒に乗り越えていくお手伝いができればと考えております。

藍綬褒章を受けて

野田　久教
西之表市
学校法人西岸寺学園
西之表幼稚園
理事長・園長

平成 27 年度　春の褒章で藍綬褒章を拝受いたしました。これまで多くの方々に支えられてのお蔭さまであると感謝いたしております。

一昨年、園の創立 90 周年記念をたくさんの皆様のご尽力により様々な催事を行っている時に、教育功労の県知事表彰を思いがけなくいただき感激いたしましたが、またこの度の褒章に当たり更なる感激とご推薦いただきました皆様に衷心より深く感謝申し上げます。

昨年 5 月 15 日午前中に伝達を受け、午後より皇居において家内共々拝謁をさせていただきました。「平和」の旅を続けられていらっしゃいます陛下をご拝顔できましたことは望外の喜びでありました。

今年も一月一日、成人を迎えた卒園児と保護者が遠近各地より集合、タイムカプセルを開け歓声をあげ思い出話しで盛り上がり歓談しました。気が付くと子どもたちはブランコの回りにみんな集まって語らっていました。現況を報告し合い、目標を話す子どもたちに心からエールを送ることでした。

今、2000 年に植樹したヒカンザクラが今年も咲き始めその下を園児たちが元気に駆け回っています。この光景を眺めながらこの度の褒章受章を更なる精進の糧とさせていただく所存です。

ありがとうございました。

鹿児島県知事表彰
鹿児島県私立学校教育功労者表彰を受けて

押野　典生
薩摩川内市
学校法人押野学園
認定こども園
せんだい幼稚園
理事長・園長

この度、このような表彰を頂きまして感謝申し上げます。ただ、がむしゃらに 36 年間突き進んできただけで、協会はじめ他の団体に貢献したわけでもないのに恥ずかしい思いです。

昭和 55 年法人設立、幼稚園開設を皮切りに「教育」と「経営」への無知を痛感しながら突っ走った副園長としての 8 年間、そして理事長・園長としての 28 年間は全ての物事を大局的に見なければならない、試練の日々が続きました。社会情勢の変化は、否応なしに園運営にも繋がっていきました。行政指導も何か事件（こと）がある度に対応を求められ、経営面では人件費比率が高くなり、指摘されることもありました。

そんな中「ぶれてはならないもの」って何だろうと。子どもたちの園（その）でなければならない幼稚園は、やっぱり人（ひと）人材だと確信してまいりました。子どもと共に育つ、といいますが決して簡単なことではありません。「どうしてだろう？」と問いを持ち、互いに研鑽する職員の姿勢が求められています。研鑽に励む職員の背中を見ていると、己を正すことばかりです。それでも当園に勤務したたくさんの職員、保護者の方々から後押ししていただいているからこそ、これまで続けてこられたのだろうと感謝しています。

この光栄を機に、もうひと踏ん張りせよということでしょう。これからも引き続き「明日も行きたい幼稚園」作りに励みたいと思います。有り難うございました。

平湯　和江
鹿児島市
学校法人鹿児島めぐみ学園
幼保連携型認定こども園
めぐみ幼稚園
園長

この度は、鹿児島県私立学校教育功労者という身に余る賞をいただきましてありがとうございました。大した功績もなく恐縮しているところですが、44 年と長きにわたって幼児教育に携わり、園長として 31 年とその重責にあたらせていただいていることに対する表彰だと思い、心から感謝申し上げます。

本園は 1952 年（昭和 27 年）に宗教法人日本バプテスト鹿児島基督教会附属めぐみ幼稚園として設立され、2006 年（平成 18 年）に学校法人となり、2015 年（平成 27 年）４月に幼保連携型認定こども園としての歩みをスタートしました。キリスト教保育の存続と、子育て支援を考えてのことでしたが、戸惑いながらの認定こども園です。０歳からの預かりは気を遣い、大変なこともありますが、その成長ぶりは目を見張るものがあり、とても可愛いいです。時々大きい子たちと関わる場面があるのですが、その眼差しはとても優しくてほのぼのとします。時代の流れで保育の形態が変わっていくこともありますが、子どもたちは昔も今も変わることはありません。一人ひとりの子どもたちが幸せで、豊かな時を過ごすことができるようにサポートしていきたいと思います。

振り返りますと、私がここまでやってこれたのは多くの方のご指導とご支援があってのことだと、心から感謝しております。これからも子どもたちの笑顔がみられるように、微力ながら務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

鹿児島県私立幼稚園協会
会長表彰を受けて

伊地知　理恵子
鹿児島市
学校法人善き牧者学園
認定こども園
谷山善き牧者幼稚園

平成 27 年度鹿児島県私立幼稚園教職員研修大会におきまして、このような身に余る賞をいただきましたこと、大変嬉しく光栄に思っております。心より感謝申し上げます。

このような受賞の機会をいただけましたことは、理事長先生をはじめ園長先生の温かいご指導と支えてくださった同僚の先生方、保護者の皆様、そしてかわいい子供たちとの出会いのおかげと心から感謝しております。

毎日の保育の中で、子供たちの素敵な笑顔や目標に向かって頑張る姿、優しさや思いやりの心を身に付けて力強く成長していく姿に大きな喜びを感じ、力をいただいています。子供たちの成長を側で見守り、一緒に喜びを分かち合いながら過ごすことができることを本当に幸せに思います。

発達や人生の基礎となる乳幼児期の大切な時期に、深く関わる保育教諭としての自覚と責任を強く持ち続け、これからも子どもの心に寄り添う保育を大切に、周りの方々への感謝の気持ちと向上心を持って日々の保育に努めてまいりたいと思います。

鹿児島市支部

鹿児島市支部では、総務・政策・経営研究・教育研究・広報の５常置委員会を設け、それぞれの委員会が年間計画を立案し実践した。

年度初めの総会において、下記のような重点課題を承認していただき、各委員会が計画的に取り組み成果を上げた。

１　重点課題

⑴　各補助金の増額要望と「新制度移行」や「幼児教育無償化」についての合議

※３歳児保育運営費補助の増額と２歳児補助の継続

※子育て支援部保育課との連携

※理事長･園長研修会にて新制度の理解の深化を図った。（８月 28 日）

⑵　加盟園全園の一致協力した活動の取組みとPTA・振興議員との連携

※振興議員の「一日園長」実施。６名が体験　５年間で述べ 35 人。

⑶　幼稚園教育要領の趣旨を生かした保育研究、並びに教育課程に係る教育時間終了後に行う教育活動の充実

※「０歳児～２歳児の保育」について研究する【研修会の企画】

⑷　教員の資質向上を目指す各種研修会への参加促進

※各ブロックの研修活動の充実。公私立幼稚園保育研究会への参加。

⑸　自己評価及び学校関係者評価の実施と公表の充実

⑹　幼稚園・認定こども園の学びを、社会に認知してもらうための企画充実

※「リビングかごしま新聞」との連携（広告の在り方）

⑺　円滑な接続を目指した幼小連携の充実。小学校長会との連携・充実

⑻　個々に応じた発達支援の在り方と個別の指導計画・支援計画の作成

⑼　幼児の健やかな育ちのために、保健・衛生・食育の充実

⑽　安心・安全で楽しい幼稚園の環境づくりへの取組み強化

２　総務委員会

①「ホームページだより」の発行　②「テレホン相談サービス」の継続　③「アプローチカリキュラム作成の手引き」の活用

３　政策委員会

①市当局への助成等の要望　②市議会振興議員との連携　③ PTA との連携　④子ども子育て新制度への対応　⑤子育て支援部との連携

４　経営研究委員会

①財政基盤確立への方策（収入増加の取組み・保育料の適正化・補助金の増額・収益事業の拡大）　②子ども子育て新制度への対応　③「新制度理解のための研修会（８月 26 日）

５　教育研究委員会

①教育課程の編成の充実　②教師の資質向上と指導力向上のための研修の充実　③研修会の参加促進　④理事長・園長の研修の推進・充実　⑤主幹教諭及び主任教諭の資質向上（主任研修会の充実）

６　広報委員会

①「かごしま市私立幼稚園だより」の発行　②新入園児募集活動の広報　③第 12 回「かごしま市私立幼稚園フェスタ」９月 12 日（土）の実施

（支部長　富永　宏）

南　薩　支　部

南薩支部は 11 園が加盟しています。支部の現状として指宿市、南九州市、南さつま市、枕崎市という広域での支部編成のため、研修会等を開催するにあたり不便さもありますが、加世田聖母幼稚園の主任教諭を中心とする主任会や支部教職員研修会を行っています。支部の現状は、少子化・地域の過疎化の影響を受け、私立幼稚園の現状は厳しい状況ともいえます。また支部内に認定こども園もあり、今後もさらに認定子ども園が増えていく状況の中で、主任会では研修内容も子ども園を対象とした内容の検討を行っています。今後も支部内の園長先生方はもちろん教師間でも新制度に対する情報や問題点を共有し、幼児教育の重要性を内外に訴えていかなければいけません。しかし幼児教育・保育制度が変わっても、時代が変わっても変わらない大切なものがあることを、私たちは伝えていきたいと思っております。

８月８日（土）の南薩支部夏期研修会において神村学園専修学校こども学科講師津曲恵造先生を講師に迎え、『本質から考える幼児音楽教育』について講演と実技指導、１月 16 日（土）の南薩支部冬季研修会では社会福祉法人吾子の里きずな学園施設長十島真里先生を講師に迎え、『育ちが気になる子どもへの支援』と題し講演いただきました。子どもたちの抱えている悩みに寄り添える教師であるために、そして私たちは「明日も幼稚園へ行きたい。」と思ってもらえる保育をめざし研修研鑽しました。保育制度が変わり長時間保育、２歳児の就園、また認定こども園の認可にともない乳幼児の受け入れが増え、教師に求められる資質・責任は重くなっています。教師は、子どもにとって一日の大半を一緒に過ごす大人です。そのためには豊かな人間性と教育のプロとしての専門性を備えた教師力が必要です。幼児教育・保育制度が大きく変わろうとしている今だからこそ、さらに支部内の先生方と向上心をもち、研鑽を重ねていかなければと思います。

最後になりましたが、今年度は鹿児島県私立幼稚園教職員研修大会で研究発表をしていただいた加世田しらうめ幼稚園の先生方には大変なご苦労をしていただきました。この場を借りて、心より感謝申し上げます。

（支部長　朝倉　文昭）

西　薩　支　部

西薩支部は、北は出水郡長島町から日置市までの南北に細長い支部で 18 園が加盟しています。

支部の活動としては、年４回行われる教育研究委員会で、夏の西薩支部教職員研修大会の企画と準備をし、

支部における課題などを協議しました。例年８月には夏期教職員研修会を開催する予定でしたが、台風25号のため中止となりましたが、その分まで平成28年度の夏期教職員研修会を充実させたいと思います。

支部PTAの活動として11月18日（水）に西薩ママさんバレーボール大会を阿久根市総合体育館にて開催し、楽しく親睦をはかることができました。

１月17日（日）には、神村学園初等部講堂にて西薩うたう会が開催されました。参加園は少なかったですが、素晴らしい歌声が講堂内に広がり楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

平成27年度からは、新しい制度がスタートし同じ支部の中に違った形態の施設が混在するようになりましたが、連携をとりすべての子どもの最善の利益ために、また、素晴らしい幼児教育の提供のため努力していきたいと思います。　（支部長　島谷　精利）

大　隅　支　部

大隅支部では、３月16日の支部総会で今年度の活動をはじめました。「大隅私幼教師研修大会」を６月６日、星幼稚園で開催。午前中は県大会での助言もご依頼している川尻彰先生(NPO法人健康づくりフォーラム）をお迎えして、「幼児の健康な心と体を育む」と題して講演をいただき、午後からの分科会では問題提起園である大崎幼稚園を中心に、それぞれに持ち寄った研修レポートを基に熱心な討議が行われました（出席者120名）。隔年で開催している「夏期教師研修大会」は８月23、24日の二日間、霧島ロイヤルホテルで開催。講師に高附恵子先生（日本幼年教育研究会講師）をお迎えし、「明日からの保育にすぐいかせるふれあいあそび」をテーマに、たっぷりと実技指導をしていただきました。「大隅主任研修会」は隔月奇数月、年６回開催。大隅地区研修会テーマは勿論のこと様々なテーマに基づき学びを深めました。中でも１月に鹿屋カトリック幼稚園に公開保育をして頂き、認定こども園における０～２歳児の保育、３～５歳児の幼児教育の在り方等について多くの示唆を頂きました。ＰＴＡでは11月５日に大隅私幼PTA連合会研修大会を鹿屋市で開催。大隣由美絵氏（自然食品販売のお店「アンジェリク」経営）を講師にお ォきして「子どもの頃から始めたい食べ物がつくる体質」と題してお話いただきました。PTA親睦バレーボール大会は１月30日に鹿屋市体育館で開催され、50を超えるチームが参加。一日かけて熱くも楽しいリクレーションとなりました。四市三町に広がる大隅支部は21園と広範囲の大所帯ですが、全園協力的で心から感謝しています。次年度は県教研大会の開催地として、県内の先生方をお迎えしますので、今から充分に準備して備えたいと願っております。

（支部長　吉井　健）

姶良・伊佐支部

年度最終仕上げの３学期（卒園・進路準備）を迎えました。姶良伊佐地区においては、幼稚園と保育園の合同園長会を平成26年度より開始し２年目を迎え、それぞれの共通理解に取り組んでいるところです。本年１月27日は、霧島市教育委員会の要請で、霧島市小学校・中学校の校長57名の校長会で幼保小の連携について講演させていただきました。退職校長の園長先生方が、幼稚園経営を経験して「もう一度学校運営をさせたら、素晴らしい運営ができるのだが」という反省を基に、幼稚園教育の現状を報告させていただきました。

後日教育委員会から、一層の理解を深めることができたという電話をいただきました。今後とも幼稚園・保育園と小学校の連携の在り方に研究と努力をして参りたいと思います。

さて、昨年４月からこども子育て支援の新制度がスタートし、移行期になっていますが、それぞれの幼稚園でも、実施または検討中のことと存じます。国の制度も完全なものとは言えず、各市町においても戸惑うような案件が多々見受けられますが、今こそ現場の声を挙げていく必要があります。県の理事会においてもこれらの意見を集約し、全日私幼連と一緒になって国へ提言する必要があります。幼保連携型をはじめ、各種認定こども園の在り方に問題提起をしていただければ有り難く存じます。姶良伊佐地区の園長会では、教師の資質の向上と、健全な運営に一層の共通理解を深めるよう努力して参ります。　（支部長　鬼塚　俊郎）

熊毛・大島支部

本支部は種子島６園、屋久島３園、徳之島２園で構成されていますが、離島ゆえに一堂に会しての研修や交流活動は困難です。しかしながら、種子・屋久地区と徳之島地区それぞれで地区研修や園長会等を積極的に行っております。

種子・屋久地区では、例年６月及び２月に地区の教師研修会を実施しています。各園持ち回りで会場園、司会園、発表園、記録園を担当し、県協会の教育研究委員会において示された研究テーマを中心に、様々な内容で研修をしています。本年度は６月13日に西之表市内のホテルでめいろうこども園による２年目の分科会発表内容について研修しました。また、２月７日には西之表市内のめいろうこども園で、次年度１年目のテーマ研究を各園の事例を持ち寄って、野間幼稚園の研究発表概要を基に意見交換を行いました。その後に、小児科医師による「アナフィラキシーショック」についての講演を受け、食物アレルギーの学びを深めました。このように発表園のみならず全園で取り組み、各々事例を出し合って意見交換をする形式を取っています。その上で、発表園の研究内容を高めていけるよう年間を通して園内研修で研究を重ねているところです。このような研修を２年に１回は宿泊研修にし、教師間の交流・慰安として楽しんでおります。また、数年前から１年１回持ち回りで公開研究保育を実施し、本年度は10月31日に南種子町の中央認定こども園で行われました。新制度を向かえた中で、様々な課題も顕在化してきましたが、一層地域に根ざした幼児教育の質の向上を目指していきたいと思います。

（支部長　圖師　和俊）

平成 28 年度の主な行事（予定）　＝ 2016 ＝

行　事　名	期　日	場　所
第１回新規採用教員研修会	４／５（火）	マリンパレスかごしま
県私幼協会・県ＰＴＡ監事監査	４／13（水）	協会事務局
一般社団法人私幼協会理事会	４／20（水）	協会事務局
一般社団法人退職金基金社団監事監査	４／27（水）	協会事務局
一般社団法人退職金基金社団理事会	４／27（水）	協会事務局
県ＰＴＡ指導者研修会	５／10（火）	サンロイヤルホテル
一般社団法人県私幼協会総会 一般社団法人退職金基金社団総会	５／19（木）	マリンパレスかごしま
県ＰＴＡ連合会総会	５／27（金）	黎明館講堂
県主任研修会	６／２（木）	マリンパレスかごしま
九州地区私立幼稚園退職金団体代表者会議	６／２（木）	福岡ガーデンパレス
全国私立幼稚園退職金団体協議会総会・研修会	６／９（木） ６／10（金）	ローズホテル横浜（神奈川県）
第 32 回九州地区設置者・園長研修大会（長崎大会）	６／30（木） ７／１（金）	長崎県

行　事　名	期　日	場　所
平成 28 年度教職員研修大会大隅大会	７／21（木） ７／22（金）	鹿屋市文化会館
第 32 回九州地区教師研修大会佐賀大会 免許状更新講習（２日目分科会）	８／４（木） ８／５（金）	佐賀市文化会館グランデはがくれ
第 17 回乳幼児教育・保育実践講座 ※免許状更新講習（１日目）	８／８（月） ８／９（火）	マリンパレスかごしま
教員採用候補者試験	未　定	未　定
第７回幼児教育実践学会	８／18（木） ８／19（金）	東　京
第 31 回 九州地区ＰＴＡ指導者研修会	９／27（火）	大分県
平成 28 年度 設置者・園長研究協議会（県私幼）	９／28（水） ９／29（木）	鹿児島支部
全日私幼連設置者・園長 全国研修大会	10／17（月） 10／18（火）	石川県金沢市
九州地区免許状更新講習講座	12／３（土） 12／４（日）	福岡必須 12 時間 ＊実施予定です
第２回新規採用教員研修会	12／26（月）	マリンパレスかごしま
第 20 回 幼稚園等教育改善研究会	１／27（金） １／28（土）	鹿児島市地区
平成 28 年度 保育教諭等研修会 （もし開催するとなれば）	11／９（水） 11／10（木）	マリンパレスかごしま

平成 28 年度
第 55 回 鹿児島県私立幼稚園教職員研修大会　大隅大会（案）

大会テーマ「人生のスタートにこそ良質な教育を」（１年次）
～保育臨床の視点を大切に，保育の質を問い続けよう～

〔日　程〕

第１日目　７月21日（木）【分科会：大隅支部12の幼稚園等】

9:30	10:00	11:30	11:40	12:40	15:30	15:45
	受付	公開保育（保育参観・会場園見学）	開会行事	昼食	問題提起・分科会（中間に休息・後半に指導助言）	閉会行事 諸連絡	解散

第２日目　７月22日（金）【全体会：鹿屋市文化会館】

9:30	10:30	10:50	11:00	12:00	13:15	14:00	14:20	15:50	16:10
	受付（ポスター発表）	特別出演	開会式準備	開会式	昼食（ポスター発表）	講習	休息（準備）	講演 同志社女子大学教授 笠間　浩幸先生	閉会式	解散

だっくばらん

平成 27 年度の広報活動は、「子ども・子育て支援新制度元年」むぞかネットに加盟園名簿の掲載からはじまりました。園名変更も多く、類型も幼稚園型・幼保連携型・私学助成・施設型給付へと４つに分かれ、各園の幼稚園教育～子育て支援の比重のかけ方も多様になりました。そして喜ばしいことに園児・教職員数も大幅に増員されました。昨年比園児数は 1850 人増、教職員数は 421 人増となり、「ようちえんって楽しい」の発行部数も大幅に伸びました。しかしながらその分教職員の人材確保が難しい時代となりました。今こそ教職員の処遇改善等が急務です。

よりよい教職員によるよりよい養護と教育を!! そんな願いを込めて「ようちえんって楽しい」を発行させていただきました。幼稚園教諭・保育士を目指す学生さんが親しみの持てる紙面作りを心がけ、幼稚園生活が伝わる写真を増やしました。教員養成校には、一人でも多く幼児教育・保育を目指してくれるよう全学生が手に取っていただけるよう倍増して送付させていただきました。

この頃先輩園長先生の教えを思い出します。幼児教育に必要な三つの「ゆ」**勇気・ユーモア・ゆとり**だと教えられました。しかし昨今三つの「こ」**効果・効率・個人主義**が強く求められています。まあ～折り合いつけて 28 年度もがんばりましょう。最後に今年度情報提供、原稿執筆してくださった先生方には深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

平成 27 年度広報委員会　活動報告

○むぞかネットに加盟園名簿の掲載　○各種研修会等の報告　○「ようちえんって楽しい」７月・12 月発行　○文部科学省パンフ「幼稚園ってなあに」加盟希望園に斡旋　○HP むぞかネットによる「幼児教育無償化署名運動」の広報　○「鹿私幼だより No75」３月発行

調査広報委員長　原田　謙二